

小田原市総合計画審議会(第2回)資料

前回(第1回)の論点に対する事務局の考え

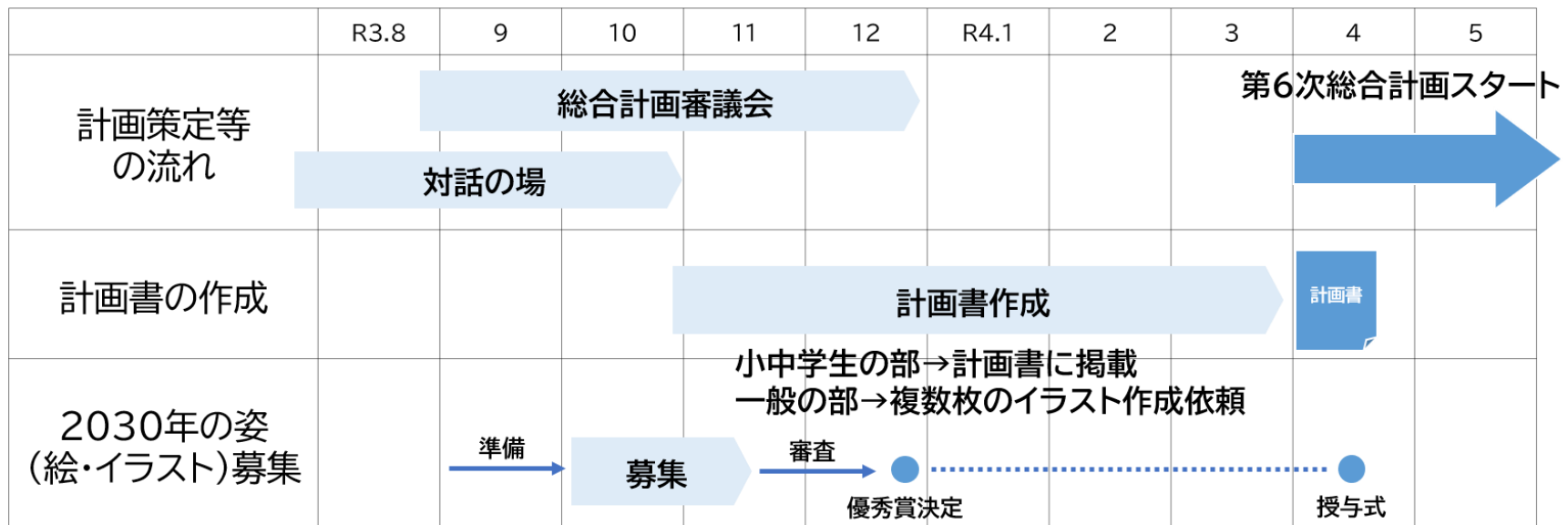
- ① 2030年に活躍する若年層(小学生・中学生・高校生)の意見のくみ上げ
- ② 計画をみんなのものにしていくための工夫(評価・見直しの仕組み)
- ③ 計画づくりと取組推進の考え方(推進エンジンの位置付け)
- ④ 将来都市像と計画をつなぐ、市民の皆さんがイメージしやすいコンセプト

① 2030年に活躍する若年層(小学生・中学生・高校生)の意見のくみ上げ

- 小田原をどうしていきたいか、若年層(小中高)の意見のくみ上げの検討を
- 子どもたちの意見を実際に計画に反映できるかは未定
- 小中学校において将来の計画をつくっているということの情報提供を
- 子どもを含めた市民生活の将来像を描くこの機会を、きっかけとして十分に生かしてほしい

【事務局の考え】

- コロナ禍も踏まえ、小・中・高校生から直接意見を頂く場を設けることはしないが、2030年の小田原の姿を描くこの機会を生かし、小中学生が描く2030年の小田原の姿(絵)、一般を対象とした総合計画で描く2030年の姿(イラスト)を募集し、計画策定の意義や2030年の小田原を共につくっていくことを広く市民に普及していきたい。下図のスケジュールを想定。

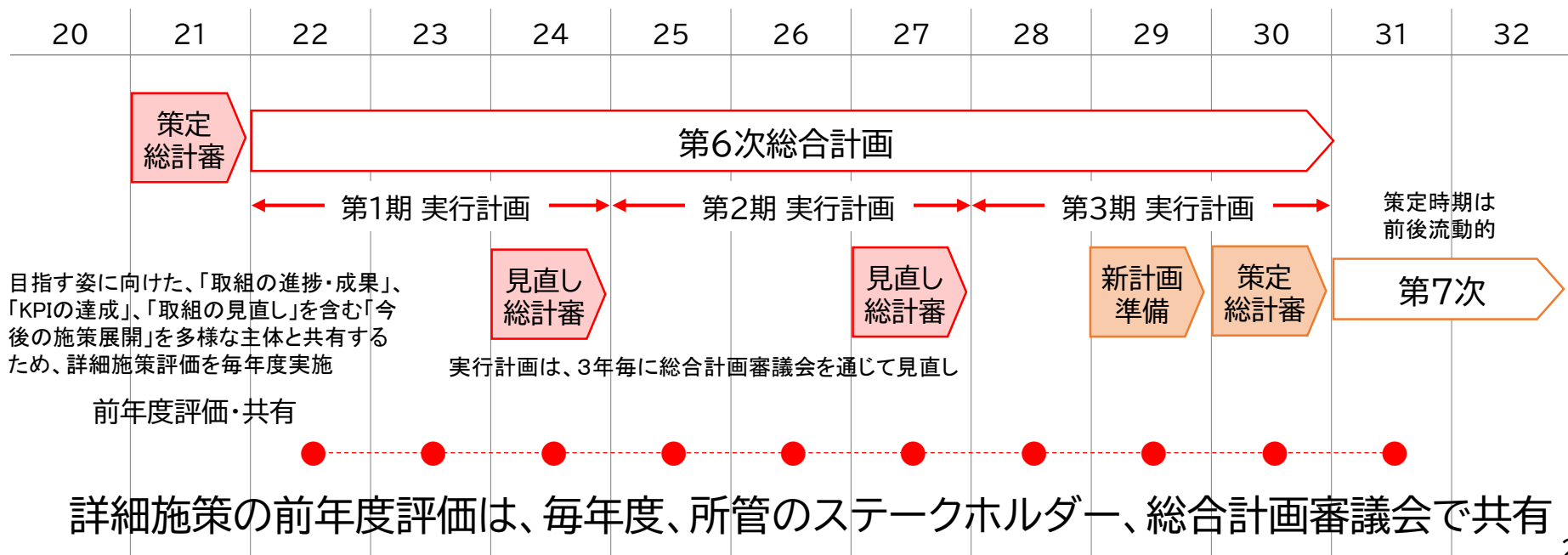


② 計画をみんなのものにしていくための工夫(評価・見直しの仕組み)

- 計画では大きな道筋を示し、都度ご意見を聞いて見直ししながら、一緒に取り組む体制を
- 今回、完成形を目指すことだけでなく、走りながらいいものをつくっていく総合計画に
- 計画を3年スパンで見直すが、毎年度施策の達成度を評価する仕組みをつくっていきたい
- この際、KPI設定の工夫、KPIを柔軟に軌道修正することも考える必要がある

【事務局の考え】

- (行政案P19に評価・検証の考え方を記載)「総合計画に基づく取組を効果的・効率的に推進するため、実行計画については、毎年度、施策等の達成度を評価・検証する進行管理を行うとともに、3年に一度実行計画の見直しを行うことで、社会状況の変化に柔軟に対応できる計画としていきます。」下図の流れを想定。



③ 計画づくりと取組推進の考え方(推進エンジンの位置付け)

- 計画づくりと取組の推進を別ものとし、ない考えが必要ではないか
- 単年度予算なので、従来型の発想だと、取組の推進にタイムラグが生じることも想定される
- 例えば、計画のなかにも推進プロジェクトのスケジュールを記載することも考えられる
- この際、推進エンジンの位置付けが非常に重要になってくる

【事務局の考え】

- 計画づくりと並行して令和4年度の予算編成作業を進めており、計画に掲げる取組の予算措置及び展開を担保していく。
- 重点施策に掲げる取組については、2030ロードマップでお示した工程表(線表)を掲載するとともに、実行計画の各詳細施策の主要な取組についても線表の計画書への記載を予定。
- 推進エンジンについては、その展開について個別計画の検討やアクションを展開しており、第6次総合計画との整合を図っていく。
 - 行政経営: 行財政改革推進委員会、行財政改革実行計画の策定
 - 公民連携・若者女性活躍: 公民連携・若者女性活躍推進本部、方針の策定
 - デジタルまちづくり: デジタル化推進本部、デジタル化推進計画の策定

	短期		中期		長期			
【ロードマップ】	2020	2021	2022		2025			2030
地域医療連携		▼小田原市立病院と県立足柄上病院との連携協力協定			見直し		見直し	
		県西二次保健医療圏内の医療機関、福祉・介護施設等との連携			連携		連携	
新市立病院建設							(仮称)地域連携・患者支援センターの設置・運営	
	基本計画	発注準備	設計・建設工事		引越	開院		▼ グランドオープン
						解体・外構・駐車場工事		
市立病院経営改革・経営形態の見直し		経営改革プラン		見直し			見直し	経営改革プラン
		【国】新ガイドライン公表					【国】新ガイドライン公表	
	検討	地方公営企業法全部適用移行・検証						

④ 将来都市像と計画をつなぐ、市民の皆さんがイメージしやすいコンセプト

- 各個別事業は網羅され、しっかりと書かれているが、市民の皆さんが、今回の計画は何に力を入れるのかがイメージできるコンセプトが大事
- 行政は全て伝えることを考えるが、少しそぎ落とす勇気も必要。公民連携やデジタルといった推進エンジンを分かりやすく示すことも考えられる

【事務局の考え】

- 第5次総合計画においては、将来都市像「市民の力で未来を拓く希望のまち」を掲げ、計画名を「おだわらTRYプラン」としている。こうした計画名だけではなく、「世界が憧れるまち“小田原”」や2030年の小田原の姿を、市民の皆様がイメージしやすくなる工夫をしていく。
- 第5次総合計画では、市民の力や地域の力を推進エンジンとして取組を進めてきたが、現時点では全国でも特筆すべきレベルに達しており、これを土台としながら、今回は、公民連携・若者女性活躍、デジタルまちづくりを推進エンジンに位置づけ更なる取組の推進を図っていく。

第6次総合計画の推進エンジン

公民連携・若者女性活躍

デジタルまちづくり

第5次総合計画の推進エンジン(第6次の土台)

市民の力・地域の力



市HPから発信
市長が語る！第6次小田原市総合計画行政案